

研究区分	教員特別研究推進 国際共同研究・国際交流の推進
------	-------------------------

研究テーマ	インドネシア・バンドン工科大学との国際交流の促進				
研究組織	代表者	所属・職名	薬学部・教授	氏名	森本 達也
	研究分担者	食品栄養科学部・教授	三浦 進司	薬学研究院・博士3年	清水 聡史
		食品栄養科学部・教授	新井 英一	薬学研究院・博士3年	清水 圭貴
		薬学部・特任教授	山田 静雄	BIT・Rector	Kadarsyah Suryadi
		薬学部・講師	伊藤 由彦	BIT・Head	Elfahmi Yaman
		薬学部・講師	刀坂 泰史	BIT・Professor	Sukrasno
		薬学部・講師	砂川 陽一	BIT・Associate Professor	Kusnandar Anggardirdja
	薬学研究院・博士4年	清水 果奈	理化学研究所・博士後研究員	Nurmila Sari	
発表者	所属・職名	薬学部・教授	氏名	森本 達也	

講演題目	インドネシア・バンドン工科大学との国際交流の促進
研究の目的、成果及び今後の展望	<p>学術研究の発展に必要な国際共同研究を実施することにより、独創的、先駆的な研究を格段に発展させることが可能となる。国際共同研究を実施し、我が国の研究者が国際的なネットワークの中で中核的な役割を担うことにより、国際共同研究の基盤の構築や更なる強化に資することにもつながる。さらに、若手研究者が参画することにより、国際的に活躍できる研究者の養成にも資するとともに、国際共同研究の基盤の中長期的な維持・発展につながる。</p> <p>バンドン工科大学 (Institut Teknologi Bandung, ITB) はインドネシアにある理工系の国立大学で、今日、インドネシアにおける最も優れた理工系大学と評価されるようになってきている。薬学科、生物学科、化学科、工業工学科、情報学科、化学工学などの学科をもち、研究も盛んにおこなわれている。海外との共同研究も行っており、日本では東京大学、東京工科大学、東北大学などが提携校となっている。</p> <p>そこで本研究の目的は、バンドン工科大学と国際共同研究を行い、国際交流の促進を行うことである。本研究により、バンドン工科大学との多様な取組を活用することで、本学の国際的な教育研究の交流を推進するだけでなく、多様で分野横断的な交流が推進し、本学の卓越した教育研究活動をさらに国際的に展開し、本学の国際的なプレゼンスの強化につながることが期待される。</p> <p>①インドネシアの民間薬「JAMU」成分を用いた日本における生活習慣病改善効果に関する研究 インドネシアで伝統的に用いられている「JAMU」には様々な天然成分が含まれている。バンドン工科大学のElfahmi博士は多くの天然物ライブラリーを保持しており、それを分与していただく。それらを静岡県立大学の様々な研究グループの疾病モデルでの効果を検討した。我々は、<i>Auraptene</i> (<i>Phytomedicine</i>. 2022 Dec;107:154457) やω3系脂肪酸 (<i>J Nutr Biochem</i>. 2022 Aug;106:109031.)、<i>Ecklonia stolonifera</i> Okamura 抽出物 (<i>Nutrients</i>. 2022 Jan 28;14(3):580.)、<i>Chrysanthemum morifolium</i> 抽出物 (<i>Cancers (Basel)</i>. 2022 Jan 28;14(3):683.) が心不全改善効果を持つことを見出した。</p> <p>②日本特有の天然物を用いた脳卒中発症抑制効果に関する研究 静岡県立大学の保有する天然物ライブラリーをバンドン工科大学の研究グループに分与し、効果を検討していただいた。特にインドネシアの死亡原因の1位である脳卒中に関する効果を動物モデルで検討していただいた。</p> <p>③本学の教員と学生をバンドン工科大学に派遣して、情報交換を行う コロナの影響のため本年度は開催されなかった。</p> <p>④バンドン工科大学の研究者を本学へ招聘し、学術交流など活発な国際交流を進める ZOOMを用いた国際交流「第3回バンドン・静岡カンファレンス」を開催し、89名の参加を得た。</p>